

令和3年度 大津市立和邇小学校学校評価書

【評価】 ③:よくできた ②:できた ①:あまりできなかった ①:まったくできなかった

項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
		小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等		
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	3	3	○児童を大切に、支持的風土を育てながら集団作りに努めることができたように感じる。 ○感染症対策を行いながらも、タブレット端末を有効に使ったり、新しい授業スタイルを作り出したりして、授業改善に努めることができた。 ○全校で、「めあて」と「ふりかえり」を意識した授業づくりに取り組んでいる。 ○学年でしっかり話し合うことで、授業内容を検討し、子どもたちの学びに生かすことができた。 ●コロナウイルス感染症の影響により、グループ活動や話し合い活動は以前ほど実施ができていない。	3	○学校全体で取り組むということが、児童の学力向上にとって大事なことだと思う。 ○コロナ禍で、対面授業が厳しい中、あらゆる手段を駆使して、新たな授業スタイルに取り組めたことは、大いに評価できる。 ○学学テストが良い結果となった背景を考察し、日々の集団・授業作りに活かしていくことが大切である。	○「めあて」の持たせ方、「ふりかえり」方を次年度以降も活用できるようにする必要がある。 ○感染状況をみながら、学校全体でラインを決めて行う活動を増やす必要がある。 ○コミュニケーション能力について、学年間交流も少しずつ増やしていく必要がある。 ○校内研究会やOJTを充実させる事で、担任の授業力向上を図る。 ○主体的・対話的で深い学びというものがあるかという学びであるのかということをもう一度教師全体で確認していく必要がある。
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	2					
	3	主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修に取り組んだ。	3					
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	3	2	○校内の課題に合わせて毎月人権の日の取り組みを行うことができた。 ○コロナ禍なので、参観ができないのは致し方ない。参観ではないが、様々なお便りやホームページで少しではあるが保護者に伝えていけたのではないかと思う。 ○毎週、学年で道徳の授業については検討し、適切な価値項目を指導できるよう考えた。 ○道徳の学習は、教科書が入ったことで教科書通りに進めることが多くなったように感じる。 ●道徳の資料の開発や授業公開については、時勢の影響もあり難しかった。	2	○道徳の授業の内容を保護者に知らせることは大切である。 ○自分のこととして捉え、考えられるように教材の開発や授業の工夫等、期待する。 ○教科書に依存することなく、互いに尊重し合い、認め合う気持ちを大切に、異文化共生が大切ではないか。	○保護者が学校の様子を見に来る機会も少なかったため、感染症対策を行いながらも、積極的に保護者に学校公開をする機会を設けたい。 ○教科書の教材で研究したときや、教科書外の教材を使ったときには、資料を残したり交流したりできるようにしていく必要がある。 ○道徳科の授業をより充実したものにするために、他の学級の道徳科の授業を見たり、実践を知ったりする機会を作る必要がある。 ○学年内で、1人の教員が複数の学級で道徳の授業を行う取り組みを学期に1回は実施できるようにする。
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流に取り組んだ。	2					
	6	積極的に保護者等への道徳科の授業公開を行った。						
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	2	2	○運動が苦手な児童も楽しく運動に取り組むことができるよう、授業形態を工夫することができた。また、安全面・感染対策にも留意して、場の設定なども工夫することができた。 ○体育科学習発表会では、昨年度取り組むことのできなかった団体演技をすべての学年で実施することができた。 ○縄跳び大会、ジャンピングボード、ランキング、大津スーパートライなど、運動に向かう環境づくりをすることで、縄跳びに取り組む児童が増えた。 ●コロナ感染症予防のため、休み時間が少し短縮されたことで、長休みに運動場で遊ぶ児童の数が、以前と比べて減ったように感じる。	3	○運動の向かう環境づくりが、学校全体で工夫され実践されていることは、大変良い取り組みである。 ○運動したくなるような環境の工夫がなされ、苦手意識をもたせない工夫が大切だと思う。	○運動が苦手な子どもも進んで取り組むことができるような声かけをしていきたい。 ○体育の宿題がいまいち子供たちに浸透できていないので何かよい方法を考えていきたい。 ○コロナ禍の制限は今後もあるだろうが、できることをたくさん体験させていきたい。 ○中庭の整備をし、なわとびやドッジけんなど様々な運動ができる場にする。 ○一輪車を修理、追加購入し、一輪車に取り組む児童をふやす。 ○中庭のジャンプボードを、安全に、ルールを守って使えるよう、工夫する必要がある。
	8	運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	2					
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	3					
指導改善	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めた。	2	2	○教職員間の交流を積極的に行い、教材研究や授業力向上に努めることができた。 ○タブレットが入ったことにより、指導の幅が広がった。教員同士での情報交換や学びあいもできた。 ○行事の精選、学期末5校時日課の実施、AB部会の少人数制の実施することで、放課後時間の確保と会議による負担の軽減を図った。 ○Webを活用した欠席連絡やアンケートを導入したことで、業務効率が上がり、勤務時間の削減につながった。 ●コロナ禍で他クラスの授業実践を見に行く機会が少なかった。 ●働き方改革は、業務の軽減が難しい以上、中々進まないと思う。	2	○働き方改革は、教師個々の意識の問題も大きい。時間を逆算した効率的な仕事のやり方を実践するとよい。 ○経験年数の長い短いではなく、それぞれが持っている得意分野を活かして、学校全体のスキルアップにつなげてもらいたい。	○ぐんぐんタイム・ガッテンタイムの取り組み方について、もう一度見直しをし、効果的に継続していきける方法を検討する。 ○今後もタブレットのよさを活かした使い方を教員全体で学んでいきたい。他学級の授業を見合う時間をもう少し取っていただきたい。 ○教職員の教育力向上のため、校内OJTの取り組みを推進する。また、積極的に県内外の授業研究会に参加し、校内の教員に伝達する機会を設ける。 ○会議の内容・参加者の精選・目的の明確化・終了時刻の徹底を行う。
	11	教職員の指導力及び組織的な教育力の向上に努めた。	2					
	12	働き方改革の取り組みと教育活動の質の改善に取り組んだ。	2					

項目			自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて			
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等				
育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	13	2	2	○分散参観では、教室には入れなかったが、新しく導入されたタブレットで廊下に学習内容を映す等、できる限りの形で子どもの様子を参観していただいた。 ○6年生の総合的な学習の時間では、昨年度から「防災教育」に取り組んでいる。今年度は夢づくりプロジェクトの予算と社会福祉協議会の協力を得て、多くの体験活動を実施できた。 ○わにっこギャラリーで、年間2回児童の作品を和邇平和堂に展示し保護者・地域の方々に見てもらう事ができた。 ●保護者に対しては様々なことを発信しているが、すべての保護者には伝わっていないことが多い。 ●参観や懇談会の機会が減って保護者と関わる機会が少なかった。	2	○教えるプロとしての自覚を持ち、保護者に寄り添いながら、共に子どもの成長を願う姿勢で接することが大切であると思う。 ○防災教育が、地域とともに進められ、子ども達の中もしっかりと位置付いた事が、大きな成果だと思う。	○防災教育のプログラムが、これからも続けていけるように、授業計画、ワークシート、協力者のリスト、マニュアルなどを残していく。 ○コロナ禍ではあるが、児童の深い学びにつなげるため、積極的に地域の方と連携していきたい。 ○引き続き、わにっこギャラリーを続けていけるように年間行事の中に位置づけしていく。 ○保護者に対する子育て支援については、学校だけでなく外部の団体やイベントなども積極的に紹介していく。			
		14	2						○1年担任だったので、保育園や幼稚園との交流の機会ももてよかった。 ○5・5交流や秋祭りを通して、保育園の先生や園児たちと触れ合うことができた。 ○志賀南幼稚園と夏休みに校種間のカリキュラムの交流会を実施し、相互理解を深めた。 ●校種間交流を行うことができているが、実際に関わっているのは一部の教員であるため全体としてはまだまだ意識が低いように感じる。	2	○今年度は、子ども達同士の交流、教師間の研修など、昨年度より取り組めたように思います。今後も、効率良く、互惠性のある交流を期待します。 ○保幼に通う初めての子ども達の保護者は、連携しているというメッセージを受け取ること大きな安心感が得られると感じる。
		15	2								
	保幼小中の連携	16	2	○毎月1回生活アンケートを実施し、担任が即日把握して心配のある児童から話を聞くことで、いじめの早期発見に努めることができています。 ○ケース会議や授業の体制について、常に複数の人数の視点から、対応を考えることができ、組織として動くことができた。 ○いじめや生徒指導上の問題が起きた時、その日のうちに対策会議を行い対応に当たることができている。 ●いじめ事案や生徒指導事案が起きると、丁寧に対応するためケース会議やいじめ対策会議を行っているが、会議が長時間になってしまうことがあり、他の業務に支障が出たり、教職員が超過勤務になってしまったりと負担が大きい。	3	○子ども支援コーディネーターを中心とした、いじめ対策は素晴らしいと感じますが、地域団体への発信も必要ではないかを感じる。 ○生徒指導事案の対応は、「人」と「時間」がかかる。早期対応が早期解決につながることを共通認識して、大変であるが関係機関と連携しながら対応していただきたい。					
		17	2				○子ども達の能力を見出す体制作りが不可欠ではないかと思う。それには、学校全体としての取り組みが必要だと感じる。 ○個別支援計画は、うまく活用するために、端的に作成する事が大切だと思う。 ○保護者の思いや願いを共有し、一人一人の子ども達へのきめ細かな対応をお願いしたい。				
		18	2					○個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用に努めた。 ○組織的・計画的な特別支援教育体制を確立した。 ○関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。	3	○個別の支援計画を元にして、支援の必要な児童に、教師や支援員がサポートできるように校内全体の状況を考えて計画を立てる。 ○特別支援委員会を設定し、定期的を開催するとよいのでは。 ○個別の指導計画の活用に重点を置き、新たに作成する必要がないかについても検討する。 ○個別の指導計画を作成する中で、支援の方法のポイントを絞って表記することで、常に意識して関わっていけるようにする。	
組織体制の充実	生徒指導体制の充実	19	3	○スクールカウンセラーなどと連携し、相談の機会を多く作ることができた。 ○課題のある子どもに対して個別の支援計画を保護者と作成し、その子に合った支援を行っている。 ○子ども発達相談センターと連携し、検査結果をもとにして子どもの支援の方法のアドバイスを受けることができています。 ○特別支援教育の年間計画を作成し、それに合わせ計画的に進めることができています。 ●特別支援の部分で、組織的に動くところが課題であると考え。学校としての判断を下していかないといけない。 ●個別の指導計画の作成が遅れたことで、懇談が遅くなってしまうことがあった。また、作成はできているが、十分に活用しきれない部分があった。	3	○子ども支援コーディネーターを中心とした、いじめ対策は素晴らしいと感じますが、地域団体への発信も必要ではないかを感じる。 ○生徒指導事案の対応は、「人」と「時間」がかかる。早期対応が早期解決につながることを共通認識して、大変であるが関係機関と連携しながら対応していただきたい。					
		20	3				○子ども支援コーディネーターを中心とした、いじめ対策は素晴らしいと感じますが、地域団体への発信も必要ではないかを感じる。 ○生徒指導事案の対応は、「人」と「時間」がかかる。早期対応が早期解決につながることを共通認識して、大変であるが関係機関と連携しながら対応していただきたい。				
		21	3					○子ども支援コーディネーターを中心とした、いじめ対策は素晴らしいと感じますが、地域団体への発信も必要ではないかを感じる。 ○生徒指導事案の対応は、「人」と「時間」がかかる。早期対応が早期解決につながることを共通認識して、大変であるが関係機関と連携しながら対応していただきたい。			
	特別支援教育の充実	22	3	○子ども支援コーディネーターを中心とした、いじめ対策は素晴らしいと感じますが、地域団体への発信も必要ではないかを感じる。 ○生徒指導事案の対応は、「人」と「時間」がかかる。早期対応が早期解決につながることを共通認識して、大変であるが関係機関と連携しながら対応していただきたい。							
23		2	○子ども支援コーディネーターを中心とした、いじめ対策は素晴らしいと感じますが、地域団体への発信も必要ではないかを感じる。 ○生徒指導事案の対応は、「人」と「時間」がかかる。早期対応が早期解決につながることを共通認識して、大変であるが関係機関と連携しながら対応していただきたい。								
24		3			○子ども支援コーディネーターを中心とした、いじめ対策は素晴らしいと感じますが、地域団体への発信も必要ではないかを感じる。 ○生徒指導事案の対応は、「人」と「時間」がかかる。早期対応が早期解決につながることを共通認識して、大変であるが関係機関と連携しながら対応していただきたい。						
学校満足度	25	2		児童は学校に満足している。(アンケート結果より)							